

2026年1月5日

報道関係各位

**2026年 年頭社長挨拶(要約)**

**株式会社ツムラ**

株式会社ツムラ

コーポレート・コミュニケーション部

広報課 担当：瀬戸 純

e-mail shuzai@mail.tsumura.co.jp

## ツムラの“ものづくり”を世界水準へ

2026 年の干支は丙<sup>ひのえ</sup>午<sup>うま</sup>です。丙<sup>ひのえ</sup>は盛んな状態の中にも、すでに衰えの兆しが含まれていることを意味し、午<sup>うま</sup>は「午は忤<sup>そむく</sup>なり」とも解され、反対勢力の高まりを象徴します。転じて、在来勢力が大いに伸びて盛んになる一方、反対する勢力が内側から突き上げてくる年でもあります。一見すると明るく力強い年に見えますが、すでに変化の兆しが内包されており、それをどう受け止め、処理するかによって、今後の流れが大きく変わっていくことになります。高まる勢いの中に変化の兆しを見極め、的確な行動で未来を切り拓いていきましょう。

当社の“ものづくり”は創業以来、関わるすべての部門の一人ひとりが、責任と誇りを持って取り組む姿勢によって支えられてきました。創業者である初代・津村重舎から受け継がれてきた「良薬は必ず売れる」という信念のもと、時代が移り変わる中でも、原材料の選定から確保、供給、製造、販売に至るまで、全社員が一体となって品質を守り続けています。この信念をさらに進化させ、現在の当社グループは「患者様、お客様にお約束した高品質な漢方製剤を安定的に供給する」ことを使命としています。

津村重舎が信念とした「良薬」の定義には、有効性と安全性の確保や製品が高品質であることはもちろんのこと、そこで働く人、サービス、情報、組織、人間関係、組織間連携など、すべてが高品質な状態であることも含まれています。私たちは、広い意味での「品質」について深く考え抜き、「ツムラ・クオリティカルチャー」を醸成していきましょう。

天然物由来の医薬品メーカーとしてグローバル化を推進していくには、有効性・安全性・品質の面で国際的な品質基準をクリアすることが不可欠です。その実現に向け当社グループでは、医薬品規制調和国際会議（ICH）が定める、合成医薬品と同等の品質管理レベルにまで製品のクオリティを引き上げ、グローバルでの競争優位の確立を目指しています。

漢方薬は、多成分かつ天然物で構成されており、単一成分・合成物である西洋薬に比べると ICH の理念に準拠することは格段に難しい課題です。しかし、難しいからこそ挑戦する価値があります。その挑戦の一つが「Quality by Design」です。従来の品質保証は、製品完成後に試験を重ねる「Quality by Testing」でした。ICH が推奨する「Quality by Design」は、製造工程に潜むリスクを洗い出し、コントロールすることにより品質を設計するという考え方です。通常は新薬開発で導入されるこの手法を、私たちは漢方薬においても原料生薬の段階からリスクを管理する、世界初の取り組みに挑戦しています。これは、グローバルスタンダードを漢方薬に実装する歴史的な挑戦であり、ツムラが世界に示す革新の第一歩でもあります。将来に向けたグローバル化への可能性を追求していきましょう。

2026 年は長期経営ビジョン「TSUMURA VISION “Cho-WA” 2031」のちょうど折り返し地点です。「丙午」に象徴されるように、勢いが高まる中で変化の兆しを見極め、的確な行動で未来を切り拓いていきましょう。皆さん一人ひとりが変化を前向きに受け止め、新たなステージへ進むことを期待しています。

以上